

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 自分をつくる【知】【体】
自己をしっかり見つめ、個性ある存在としての自分を確立していく。
- 想いははぐくむ【徳】
自分だけでなく他者に対する気持ち、接し方、態度などを育てていく。
- 未来へつなげる【公】【開】
他者との関わりや学びあいを通じて、社会の中にある自分を次のステップへ進めていく。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

- ・自分づくりに関する力
- ・日本や世界の発展に平和的に寄与しようとする心
- ・持続可能な社会の創造に貢献しようとする態度
- ・横浜教育DX推進に基づき、ICT機器利活用から学びにデータ活用化できる生徒

具体化した資質・能力

- 「しのはら学校支援地域本部」を中核に、
- 自己肯定感をもち、未知のことへ主体的にかかわる子ども
- 他者への感謝の気持ちもち、地域交流、国際交流等自らも社会貢献する子ども
- ICT機器利活用から情報を適切に操作できる判断力

中期取組目標

- 全教職員で安全・安心、活力と魅力のある学校づくりと「働き方改革」に根付いた学校経営安定化の取組継続を目指し、
- ・生徒一人ひとりの状況や思いを大切にしながら、仲間と協働し学びを深める授業づくりを行うとともに、個に応じた指導を充実し、主体的に学習に取り組む態度を養成と個性を認め合い、お互いに高め合える力を養成します。
- ・生徒が意欲的に学ぶことできるように、ICT機器の利活用を図りながら、場・形態・教材の工夫をした授業を実現します。
- ・生活習慣改善に向けて、体力・運動能力調査等のデータを活用して自ら生活を振り返り、実践を通じて課題解決する力を育成します。
- ・地域活動に主体的に参加し、地域とのつながりを強めることで自分の意見やアイデアを発信する等、将来的に地域社会に貢献できる力を育てます。

学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|----------|--|
| 生きてはたらく知 | ①「どのように学んだか」を振り返ることで、新たな課題を見つけ、質の高い探究を生徒に継続して促す。 ②教科・領域等横断的な視点で年間指導カリキュラムを作成し、ICT機器を利活用した学習内容を効果的に深める。 ③「主体的・対話的な深い学び」を推進するために、教科の枠を越えて授業改善に繋がる情報交換の場を作り、全国と市の学力・学習状況調査のデータを活用し、授業力向上を図るとともに、小中一貫教育推進ブロック教科別研究会を開催し、情報共有を図る。 |
| 担当 | 教育課程委員会・学習指導部 |

学力向上に関わる本校の状況

- 学力の概要と要因の分析
学力については、各教科とも合計得点は市平均を上回っている。ただ、設問によっては市平均よりやや正答率が下回るものもあった。また、各教科の「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点の正答率を比較すると、「思考・判断・表現」の方が低い傾向の教科が多かった。学習意識の質問においては多くの教科で市平均以上の意識の高さが伺えることから、学習意欲の高さを維持しつつ、より一層普段の生活との繋がりを可視化したり、教科横断的な視点を保持したりできるような授業改善に努める。また小中ブロックで育成すべき子どもの姿を共有する必要がある。
- 教科学習の状況
各教科、学力は前述通り、市平均と比較すると高い。しかし、生活意識の中で「学習を通して見出した社会の課題の解決ができるか」については「どちらかと言えはできない」「できない」が3割以上を占めており、各授業の話し合い活動の多さはうかがえるが、授業の学びを身近な生活や社会につながる視点をもつことや主体的に考えることが課題として考えられるので、全教科をあげて授業改善の工夫を行うことが必要である。
- 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)
家庭での生活習慣についてはほとんど市平均を上回っており、家庭教育力の高さがうかがえる。特に睡眠時間は学年が上がるにつれて減っているが、市平均よりは高く推移しており、きちんと睡眠はとれていた。一方で、昨年度と変わらず、市平均と同じくらいに推移している項目や中間採の割合が多くなっている項目があり、学年や学校全体での対応求められる。具体的には、「自分が好きか」「自分に良いところはあるか」の項目が挙げられる。昨年度に引き続き自己肯定感の醸成、自主性・自立性を高められるような声掛け・取り組みの工夫が各教科・各学年で必要と考えられる。

今年度の目標

- ①「どのように学んだか」を振り返り、自らの課題を明確にできる。
- ②教科横断的な視点から物事を考えようとするができる。
- ③小中ブロックで育成すべき子どもの姿の共有など、組織的なカリキュラム・マネジメントの推進。

目標を実現するための具体的行動プラン

- | | |
|-----|--|
| 上半期 | <ul style="list-style-type: none"> 国語…言語活動に意欲的に取り組み、伝え合い、学び合ふ力を育成する。基礎基本の定着を図り、また他者との対話を通して、自分の考えを深め、広げられるような学習活動を取り入れる。 社会…豊かな社会を作るための深い学び・深い思考力を養成する。書く・見る・読む・話すを分離させず、他者との対話的な活動を通過して、自分の考えを深め、思考力を育成できる授業を展開する。 数学…数量や図形などの基本の徹底や問題の解法過程を数学的に考える資質・能力を育成する。TT授業を活用したり、授業での演習時間を多く設けたりして、個に応じた課題設定を行い、学習内容理解定着に努める。 理科…表現力を育てるために、予想や思考を話させる場面を積極的に設ける。実験などを通して、目標や実験計画の作成に努め、主体的かつ積極的に学ぶ場面を設定する。 音楽…様々な音楽にふれ、知識を増やししながら、自らの想いを表現する力を育成する。歌唱・器楽・創作の活動を通して、生徒が主体的に考え、実技での表現化を推進する。 美術…造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の美術文化と豊かに関わる資質・能力を養う。生活や社会の中の美術の働きに気付かせ、生徒一人ひとりが主体的に表現主題を追究するとともに、美術で育んだ造形的な視点が将来の生き方につながるような授業づくりを行う。 保健…自らの安全な生活を意識し、健康を保持、増進する態度を養う。自分の体の状態について振り返りを含め理解を深めるとともに、継続的なトレーニング等を授業で行い、体の変化や技能向上を確認する。 扶養…よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活の工夫を想像する資質・能力を育成する。実践的・体験的活動の充実を図る中で、生徒自らが課題解決できるような題材を設定し、実践する。 外国語…具体的な話題について表現し、伝え合うコミュニケーション力を育成する。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、生徒が主体的に表現に表現する授業を展開する。継続的な取組において自分や相手のことについて、その場ややり取りができるような学習活動を行う。 道徳…他者との関わりの中で育む思いやりと助け合う態度を育成する。①ローテーションでの授業や講師によるオンライン授業を実施することで、多くの大人とのかかわりの中で、多角的・多面的な視野を養う機会づくりを多くする。②自己理解と他者理解がより深まるように、道徳の授業を中心にY-P.A.アセスメントや人権作文を活用しながら、人権学習の充実を図る。③弁護士による一斉道徳授業によって、いじめ予防に努めるとともに法的知見に基づく他者理解と正しいことへの養成を図る。 特活…学校生活に参画し、集団としてよりよい学校を目指そうとする力を育成する。所属する集団で課題を見出し、その解決のために話し合い、合意形成を図り、他者と協働して意思決定する活動を設定する。 総合…教科で学んだ知識や技能を活用し、職業観を養いながら、探究的で協働的な学習を行うことを通じて、より広い視野をもち、将来の展望を自ら考え、表現することができる資質・能力を次のように育成することを目指す。①探究的な学習の過程を通して、わかる喜び・できる喜びを知る。②実生活を送る中で、課題を見いだし、解決のための見直しをもって情報を集め、整理・分析・まとめ・表現することができるようにする。③各教科で学んだことを活かし、多くの人と協働することで、思いやりを育み、視野を広げられるようにする。 個別支援級…自己の課題について理解し、自ら対応する力を育成し、他者の気持ちを考える力も育成する。また、個別の指導計画に基づき、個々の特性と実態に応じて指導形態や学習・作業集団を工夫して指導の充実化を図り、共同学習を通じて他者との関わり方を深める。 |
| 下半期 | |

豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|--|
| 豊かな心 | ①道徳における学年ごとのローテーション授業や弁護士による一斉道徳授業を継続することで、多角的・多面的な視野の醸成を図るとともに、教科横断的な指導にも取り組み、学校全体で道徳教育の充実を図る。 ②教育相談やY-P.A.アセスメントを活用しながら、行事や授業への取り組みを通して、他者理解を深めながら、人権意識の醸成を図る。 ③改定された「いじめ防止基本方針」や横浜子ども会議のテーマを基盤に引き続き、生徒の意見を取り入れながら、学校全体でいじめ予防を目指す。 |
| 担当 | 学習指導・生徒指導部 |

豊かな心に関わる本校の状況

挨拶を交わしたり、他者に対する心配りをするなど他者と関わる力が十分に育っていない状況も多々見られる。また、自らの失敗や非を認めず、成功することのみを求める行動が多いので、自己肯定感が高いが、何事にも受け身な様子も見られる。そのため、大きな問題行動が表出することは少ないが、SNSを含めた独りよがりな人間関係のトラブルが後を絶たない。

但し、これらの課題について自己理解、自己認知を深めている生徒や深めようとしている生徒も多く見られる。よって、これまでの指導を基本としながら、より生徒の実態にあった指導、支援を行ってきたい。

市学力学習状況調査における意識調査の市割合と比較すると「自分のことが好き」や「自分にはよいところがある」は全学年で上回っている。「人のためになることをしたい」「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」は学年ごとにはばらつきは見られるものの、やや上回っている。また「学校は安心できる場所」だと思っている生徒も多く、学校生活や自己意識についての生活意識は2・3年生は昨年度から向上している。社会情動的コンピテンシーに関する設問では、「好奇心」や「共感性」は市の割合とほぼ同じであるが、「知的謙虚さ」や「メタ認知」についてはやや下回っている。そのため、学校生活の中で他者との関係を調整することや他者との関わりを良好に築くことを多く経験できるように機会を作ることが効果的であると考えられる。

今年度の目標

道徳や人権、国際理解に関する学習に加えて、学校行事などを通して道徳的な価値観の醸成を図るとともに、いじめ防止基本方針について学校全体で積極的に取り組むことで、他者理解や社会情動的コンピテンシーの育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

- | | |
|-----|---|
| 上半期 | <ul style="list-style-type: none"> 【道徳教育(上下半期通して)】道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた“こころ”の教育 ・学年ごとに、生徒の実態にあわせた道徳指導ができるように授業展開や教材を工夫する。 ・道徳全体計画別業を活用して、各教科でも道徳的価値について考えられるように教科書の単元学習を活用して、豊かな心の育成を図る。 ・よこはま子ども国際平和スピーチコンテストへの参加を促進し、自らの実践や発信につなげていける機会をつくり、国際社会についての理解を深められるようにする。 ・人権作文に全校生徒が取り組むことで、学校全体で人権について考えることで、互いに尊重し合いながら過ごせる学校づくりを目指す。 ・弁護士による一斉道徳授業によって、講師である弁護士の発達段階に応じた取組から法的見地からのいじめ予防の理解を深める。 【豊かな感性や情操の育成(上下半期通して)】 ・生徒の読書活動の充実を図る。 【体験学習の充実(上下半期通して)】 ・「すこやかサークル」「新横浜パフォーマンス」等、地域行事へのボランティア活動に生徒が進んで参加できる機会を増やす。 |
| 下半期 | <ul style="list-style-type: none"> 【確かな人権意識の育成】 ・弁護士を講師として招いた、いじめに関する一斉授業を実施するとともに、「いじめ防止基本方針」について学校全体で考える機会をつくり、人権意識や違法精神について、生徒と教職員がともに理解を深める。 ・教職員向けに人権研修会を実施し、人権尊重の理解を深める。 ・各学年で修学旅行に向けた平和学習を行い、歴史理解も深めながら段階的に人権意識醸成を図る。 【体験学習の充実】 ・各学年で「キャリア学習」を行い、将来に向けての職業観、勤労を尊重する心、社会貢献への広い視野を育成する。 |

健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|---|
| 健やかな体 | ①誰もが楽しみながら運動に参加できるよう、保健体育科の授業改善を図る。またプロダンサーを招いて授業を行い、“本物”に触れることにより、運動への興味を掻き立てるとともに、体育的行事や集会等を生徒主体で運営できるようにする。 ②生徒が全国や市学状況データから、自分や校内での達成状況を理解することで、主体的に健康生活を実践できるようにする。 ③今年度からの中学校給食の全員喫食に合わせ、食育推進を図り、校内運動体制を整え、生徒の健全な食生活の推進につなげる。 |
| 担当 | 保健安全指導部・保健体育科 |

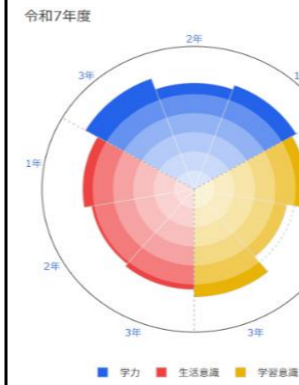
健やかな体に関わる本校の状況

・保健体育の授業では、見学者は少なく、授業への積極的な取組がみられる。

・地域にはスイミングスクール・野球場・サッカー場・スケートリンクなどの施設があり、地域クラブへの参加生徒も多い。

・体格は、横浜市の平均に比べ大きな違いはなく、各学年ともに平均であるといえる。しかしながら体力得点合計も市の平均とほぼ変わらないものの、持久力については市、全国の平均値よりも低い状況である。

・生活習慣については、朝食は毎日食べている生徒が多い。また、睡眠時間も多くの生徒が6時間以上の時間を確保している状況である。



今年度の目標

運動の楽しさや必要性を感じ、自ら進んで取り組む姿勢を養う。自己の体力向上、健康の保持増進のために主体的に課題解決ができる子どもの育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

- | | |
|-----|---|
| 上半期 | <ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの結果をもとに自己の体力を分析し、自分で実践できる運動や生活習慣について考え、実行する。具体的には体育理論の授業で、自己に適したトレーニングの方法を考えたり、保健体育の授業で、苦手としている持久力や投動作で必要とされる巧緻性、瞬発力などを高めたりする運動を積極的に導入していく。 |
| 下半期 | <ul style="list-style-type: none"> 上半期の活動を振り返り、自己の計画を修正する。授業では引き続き、苦手としている持久力や投動作で必要とされる巧緻性や瞬発力などを高める運動を積極的に導入していく。とくにこの時期は球技の領域に入っていくので、授業前のウォーミングアップの中に投動作を入れていく。 |